

○目指す姿（デジタルファースト・ワンスオンリー・ワンストップ）の実現に向け、本市現状を踏まえたバックオフィス改革方針は以下のとおりである。（本業務の対象は赤枠箇所）

本市現状を踏まえた内部事務に関する改革方針

分類		本市背景及び課題を踏まえた改革方針・想定効果			
内部事務における主な課題・原因					
システム	A) 手作業(紙管理・Excel管理・手入力等)による業務の煩雑化	システム施策及び運用施策の両輪での取り組みが必要	システム施策	① 内部事務システムの刷新	② データ連携PF・デジタルWFの導入
	B) 内部事務システムやファイルサーバ等における各種機能(登録/チェック/決裁/管理/検索/データ連携等)の欠如による業務の煩雑化			③ 職員ポータル構築	④ RPA・AI-OCRの導入
業務	C) 各種定義やマニュアル・運用ルール、テンプレート等の不備による業務の属人化/煩雑化			⑤ 運用ルール及びテンプレート等の策定	

本市の目指す姿(デジタル3原則)※1の実現を促進

デジタル
ファースト

決裁～監査までなど、内部事務においてデジタルデータで一環した対応・作業が可能な状態

ワンス
オンリー

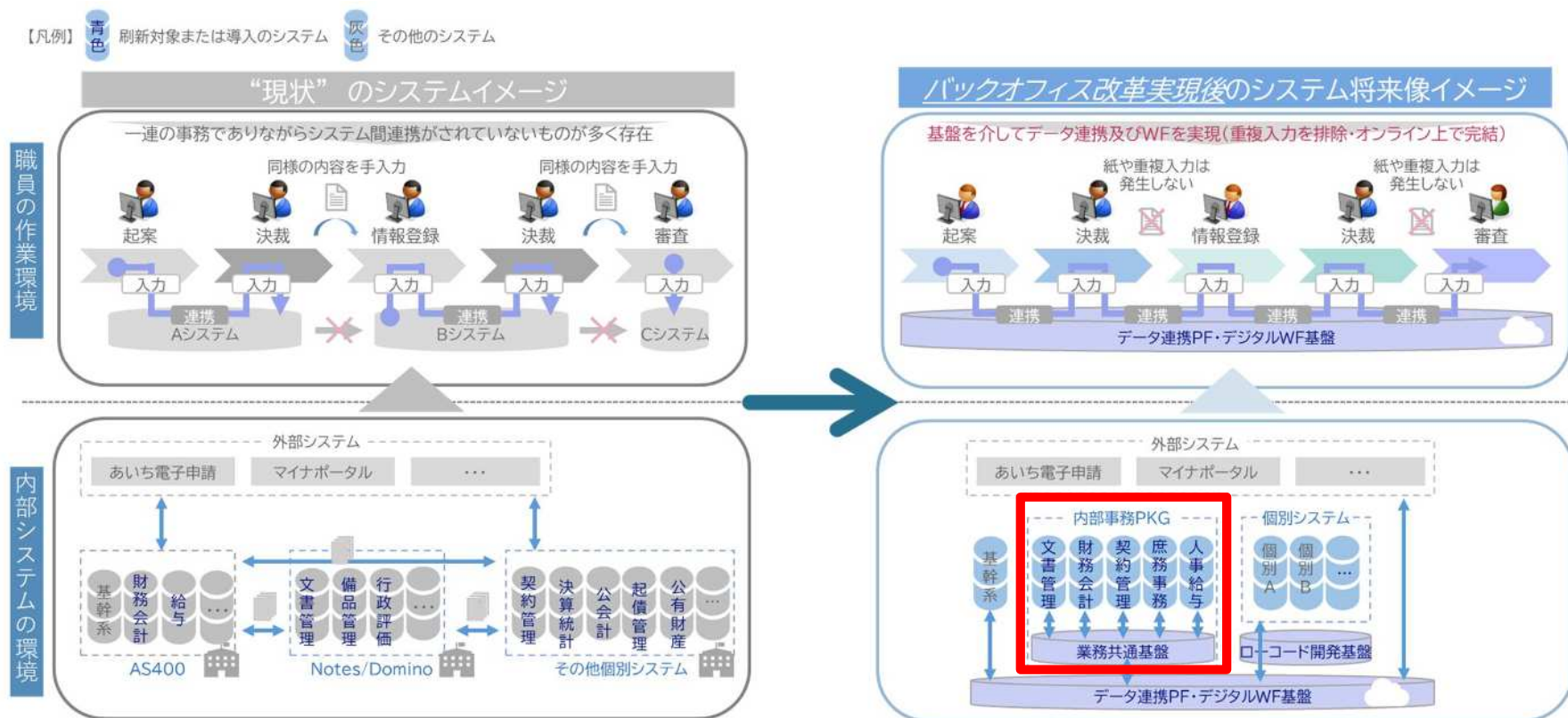
各システム・工程間のデータが連携しており、一度入力したデータを活かして業務が完結

ワン
ストップ

複数課にまたがる申請も、関連する申請又は束ねられる申請は、並行して事務処理できる状態

【参考資料2】 内部事務システムに関するこれまでの検討内容 ～システムの将来像イメージ～

- バックオフィス改革方針を踏まえたシステム将来像イメージを以下のとおりである。（本業務の対象は赤枠箇所）
- 「内部事務PKG」内に記載されている業務共通基盤については、各システム間のデータ連携を目的としたものであり、パッケージシステム内でデータ連携機能が含まれている場合、基盤構築は不要である。
- なお、現行業務で活用しているシステムは以下のとおりである。
 財務会計システム：COBOLにて自庁開発、契約管理システム：e-CYDEEN（日立システムズ）、文書管理システム：HCL Notesにて自庁開発
 人事管理システム：ADPS（CASIO）、給与システム：COBOLにて自庁開発、勤怠管理：HCL Notesにて自庁開発



【参考資料2】 内部事務システムに関するこれまでの検討内容 ～バックオフィスのシステム構成案～

○バックオフィス全体のシステム構成イメージは以下のとおりである。（本業務の対象は赤枠箇所）

○なお、下記システム構成イメージは、今後目指していく姿であり、「認証・ポータル」や「WF基盤・情報連携基盤」等は現在存在していない。（具体的な構築内容等は、今後検討予定）

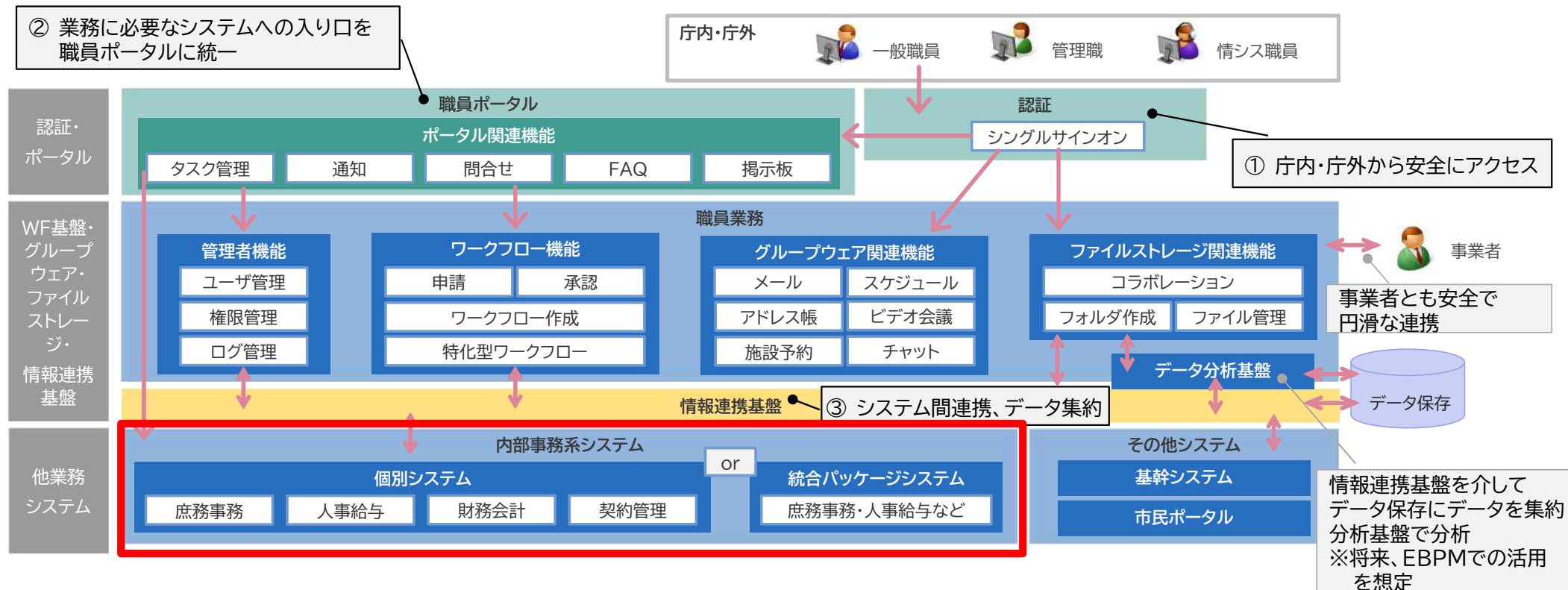
ポイント

① 庁内・庁外からシングルサインオンを用いて安全にアクセスでき、効率的に業務可能

② 業務に必要なシステムへの入り口を職員ポータルに統一することで、利便性を向上

③ システム間の連携性の向上と合わせ、データを集約・蓄積

② 業務に必要なシステムへの入り口を職員ポータルに統一



○本業務の対象である内部事務システムを刷新する際の方針・考え方は以下のとおりである。

《内部事務システムの刷新に向けた方針》

『原則、統合パッケージシステム（※）』で検討を進める。

※一つのシステム上で、財務会計・契約管理・文書管理・人事給与が含まれているシステムのこと

《考え方》

- 各システム間の情報・データ連携による作業効率性等を考慮すると、同じデータ連携基盤内で扱えるシステムが望ましいため。
- ただし、令和7年度実施するRFI（システム業者へ機能要件等に関する情報提供を依頼すること）結果に応じて、最終的な方針・方向性を整理する。
 - ⇒統合パッケージ or 個別パッケージ、どのような組み合わせが情報連携上で最適なのか など
- また、内部事務システムのパッケージシステムは、原則、ノンカスタマイズで検討を進める。
- パッケージシステム導入時に、「現行システムによる運用」と「次期システム候補による運用」とのGapを調整する際は、将来的な運用やコストパフォーマンスを踏まえた上で、以下の優先順位で最適な手法を検討する。

[優先順位]

優先①：運用の見直し（運用をシステムに合わせるBPRの実施）

優先②：パッケージシステム内での対応（パッケージ標準機能の範囲内での調整・設定）

優先③：パッケージシステム外での対応

〔既存ツール（kintoneやRPA等）の活用 or ノーコード・ローコードツール（今後導入予定）によるシステム開発〕

※優先①～③を検討した上で、カスタマイズが必要な場合は、「カスタマイズの費用対効果」や「カスタマイズしたことによるベンダーロックインの可能性」などを考慮した上で、カスタマイズの実施可否を検討する。